

経営比較分析表（令和6年度決算）

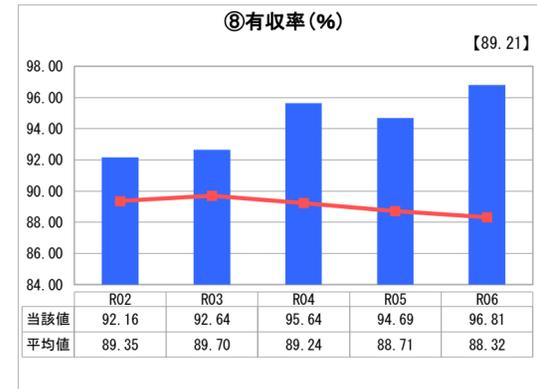
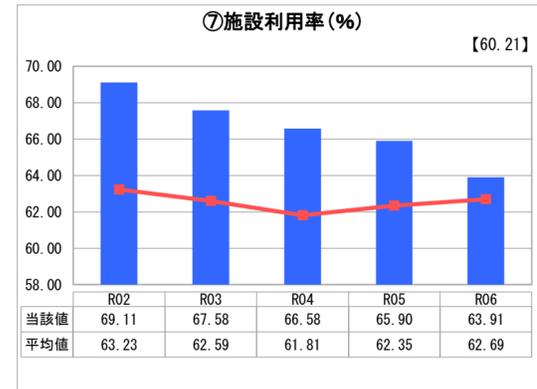
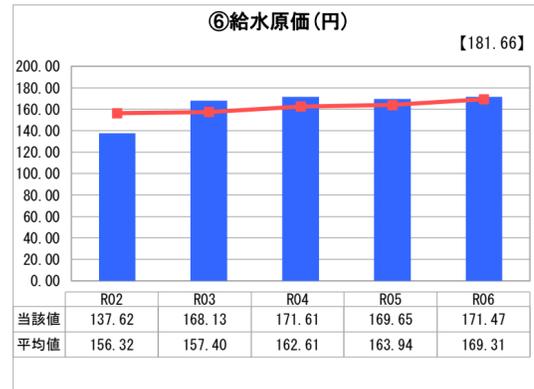
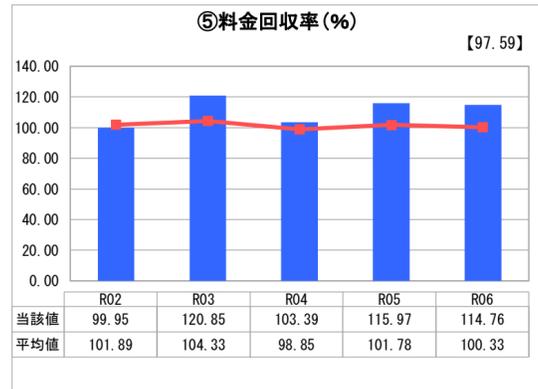
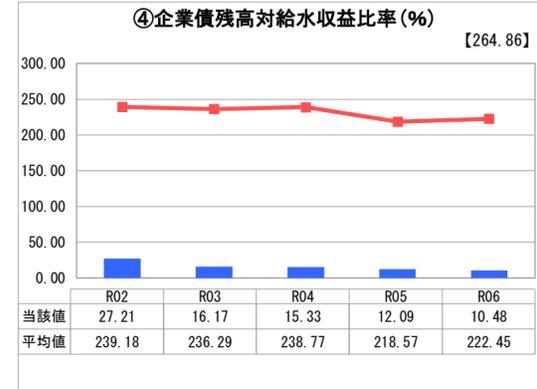
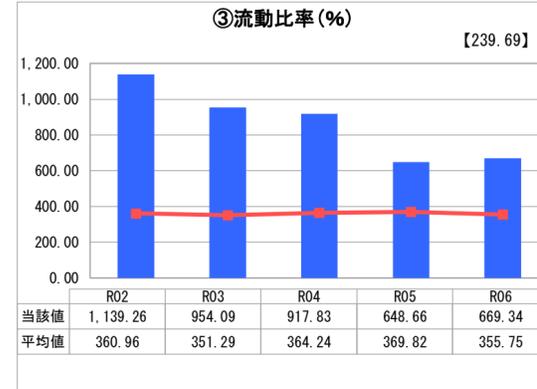
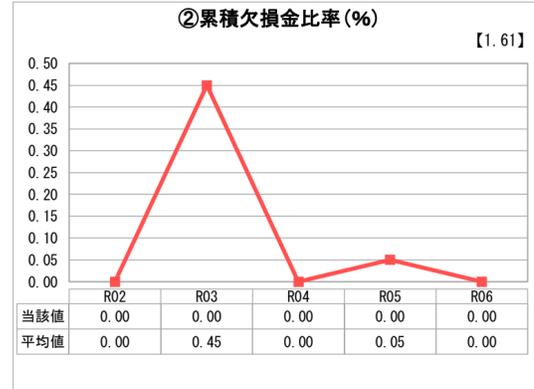
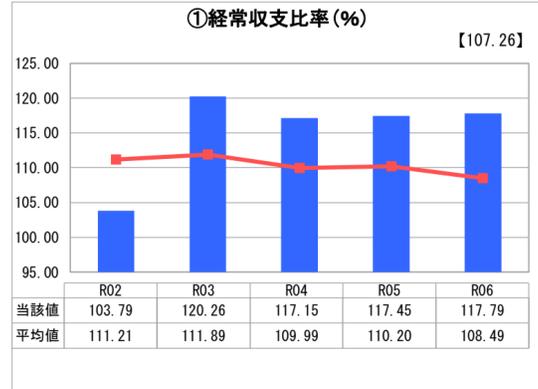
兵庫県 三田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	97.80	99.42	3,025	

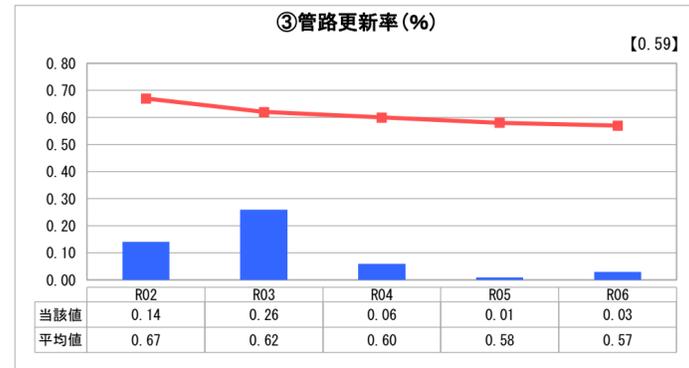
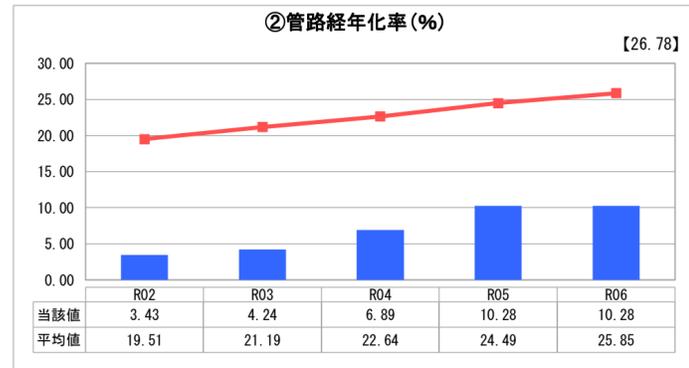
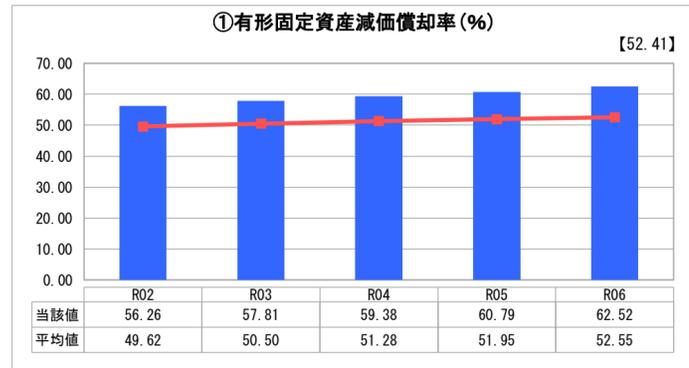
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
106,482	210.32	506.29
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
105,330	71.97	1,463.53

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、③流動比率については類似団体と比べても高く、現状は黒字経営と安定した支払能力を維持できているものと判断できます。また⑤料金回収率については100%以上を維持し水道料金の原価を回収できています。人口急増に対応するために要した多くの債務を着実に削減した結果、④企業債残高対給水収益比率は類似団体と比べ低く、現状は企業債に依存しない事業運営を行っています。⑥給水原価は令和2年度の県営水道からの受水費用の一部免除による低下時を除き、経年比較で微増傾向にあります。今後も物価高騰等による営業費用増加が見込まれるため、効率的経営に取り組み原価の維持に努めます。

<効率性について>

⑦施設利用率は令和6年度から兵庫県からの受水量を削減したことによる総配水量の減少により約2%の低下となりましたが、類似団体を上回っており、施設の規模は過剰でないと言えます。しかし、給水人口の減少、節水意識の高まりにより使用水量は減少傾向にあり、施設利用率は低下傾向にあります。⑧有収率については類似団体平均を上回っています。漏水調査の実施や老朽管の計画的更新に取り組み、現在の水準の維持に努めます。

2. 老朽化の状況について

比較的新しい管路の多い本市では、②管路経年率は増加傾向にありますが、類似団体と比べて低くなっており、法定耐用年数を越えた管路は少ないと言えます。しかしながら、今後必要となる管路の更新需要を踏まえ、③管路更新率が低いため更新ペースを高めていく必要があります。また、①有形固定資産減価償却率が増加傾向にあることから、施設・設備も含め資産全体としても老朽化が進んでいます。施設・設備は日常点検での状態確認と修繕等により延命化を図っていますが、今後は耐震性等の課題に対応するため更新を計画的に行っていく必要があります。

全体総括

事業運営は、多くの指標で類似団体より良好な数値を維持しており、安定的に運営されています。しかし、人口減少等による使用水量は減少、施設の老朽化に伴う更新需要の増大、人材育成や人材確保の困難、加えて物価高騰や職員給与費増加による費用の増加が課題となっています。将来にわたり持続可能な経営活動を行うため、令和6年度から開始した「第2次三田市水道ビジョン」のもと、安定経営のための取組みを引き続き進めるとともに、効果的な施設整備・事業運営、管路の更新計画の検討等に努めていきます。